

第12回トンボの森づくり 森づくり活動ますます充実



ツリーデッキと付近の森林を整備



水路に溜まった草や泥を除去



手作りのパチンコ
で玉（ドングリ）
を試射

11月15日、津黒いきものふれあいの里でトンボの森が行われました。イベントには、㈱トンボの社員や市民など約100人が参加。グループに分かれ、森林整備のほか、カスミサンショウウオがすめる環境整備、木の枝を使った工作などを行いました。また、真庭建築士会の協力により地上から約3層の高さにツリーデッキが整備され、完成後には見学会も行われました。トンボの森では、下草刈りや除間伐などの里地里山保全活動や生物多様性保全活動を市民と企業、行政が連携して実施しており、今年度が3年目の取り組み。

農地パトロール 大切な農地を守るため

農業委員会の農地パトロールが10月29日～11月4日に実施されました。農地が適正に管理され活用されるかをチェックするためのもので、各地域の農業委員が農地転用許可後の状況などを重点的に見て回りました。このパトロールは8～11月の全国統一「農地パトロール月間」に合わせて、市農業委員会が毎年行っているものです。なお、11月、12月は「耕作放棄地解消強化月間」となっています。



農地を見て状況を確認する農業委員



意見書を太田市長に手渡す為本会長

青少年健全育成推進方針意見書提出 地域で守ろう情報モラル

青少年健全育成推進方針に係る意見書が10月31日に、真庭市および真庭市教育委員会に提出されました。真庭市青少年問題協議会（為本正己会長）では、インターネットの普及が学力低下や犯罪、いじめなどの要因にもなっていることから意見書を作成。スマートフォンなどを持たせる場合には、使用時間やアクセスの制限を設けるといった使い方のルール化など、家庭と地域全体での取り組みを提案しました。



市政に関する動きの一部を紹介します

10/28 生ごみ減量に向け液肥利用目指す

下河内地内で液肥栽培された水稻の収穫作業が行われました。5月に田んぼ12アールに生ごみやし尿などをメタン発酵させたバイオ液肥を散布。家庭ごみの資源化や液肥の実用化に向け、今後も実証を続けていきます。



10/30 6人目の協力隊員に中村さん

地域おこし協力隊の委嘱式が本庁舎で行われ、千葉県柏市出身の中村雄亮さんに委嘱状が手渡されました。真庭市の協力隊員として6人目。中村さんは、農産物の売り込みなどに力を発揮したいと意気込みを語りました。



やすりを使ってまが玉の形を整える参加者ら

蒜山地域の古代を体験するイベント「ひるぜん地域の古代を体験！」が11月9日、蒜山郷土博物館で開催され、県内外から約20人が参加しました。午前中に講座などで地域の古代史を学び、午後からは復元された竪穴式住居や国指定史跡の四ツ塚古墳の石室などを見学。最後にまが玉作りも体験し、のこぎりやすりで思い思いの形に仕上げていました。地域の歴史を見て、触れて、学ぶ1日を満喫しました。

ひるぜん地域の古代を体験！
歴史に触れる1日を満喫



市長室から こんにちは!

林業・木材業関係者とともに視察研修 木材活用の地・オーストリアへ

11月初旬に、真庭の林業木材業関係者とグラーツ市を中心に、イタリア国境に近いオーストリア南部を訪れました。真庭の将来を担う若手も大勢参加し、木材の伐採集材、製材・CLT製造、バイオマス活用施設などを視察しました。山は真庭と同じ様態で傾斜が30度ほどですが、林業機械を駆使し伐採集材の労働生産性は日本の10倍あり、驚きの連続でした。この機械化のハードとソフトを是非早く真庭に導入していきたいものです。



約30度の傾斜地で稼働する林業機械の運転状況などを確認
(11月5日)

ヨーロッパのCLT生産は現在50万㎡。また、湾曲技術も開発されています。日本では、これから建築基準法で認められる建築資材になる段階。日本でも生産

が本格化し、使用され輸出されれば、木材の需要拡大⇒価格上昇⇒森林価値増加の好循環となり、山村が潤い、森林整備が進みます。真庭でCLTの材料生産から加工までが一貫して実現するように、市と森林木材関係者が一丸となって鋭意取り組んでまいります。



製材過程の視察ではCLTの湾曲技術やその活用などについて研修
(11月6日)

さらに、木材を余すところなく使用するバイオマス利活用を進めなければなりません。視察を通じて、この3つが真庭市の未来を切り拓く道であると確信できました。皆さんとこの道を歩んで行きましょう。



板の層を互いに直交するように接着した集成材のCLT。その強度が認められ、オーストリアをはじめとするヨーロッパ各国では既に多くの建築物に活用されています